



この構成図は、天保9(1838)年に描かれた『稲毛川崎二ヶ領用水絵図』をはじめとする資料をもとに推定を加え、当時の水路構成を図式化したものです。多摩川の水が、稲毛・川崎領の村々をうまく巡るよう工夫された仕掛けが、そこには見られます。稲毛・川崎六十ヶ村は当時、全体の用水組合の他に、支水路を軸にまとまった小さな組合を幾つか組織し、その管理にあたっていました。一つの村が二つ以上の用水組合に属することもありました。

- この構成図は、旧知絵図に掲載されていたものを再編成した。
- 図中の水路系統と村名・水路名は『稲毛川崎二ヶ領用水絵図』より引用した。ただし、( )内は現在の名称を用いた。
- は主要な用水路、は小用水路、は河川、そしては稲毛・川崎六十ヶ村をそれぞれ示す。